

テーマC : Coinhive設置サイト摘発

・Coinhive事件とは？

Coinhiveは、HTMLにJavaScriptを埋め込むことでサイトを閲覧した人のCPUを動かし、仮想通貨のマイニングを行うツールである。これをある男性がサイト閲覧者の同意を得ずに設置し、不正指令電磁的記録取得・保管の罪（通称ウイルス罪）で略式起訴されて罰金十万円を支払うように命じられたが、男性はこれを不服として正式裁判を要求した。

裁判では、CoinHiveが不正指令電磁的記録に該当するか、つまり反意図性と不正性という条文に定められた二つの要件を満たしているか、ということが主な争点となった。

事件に対するそれぞれの主張

検察側の主張

- 閲覧者はマイニングに気づかないため、閲覧者の意図に反している。
- 閲覧者にマイニングする意思がなかったことは明らか。
- 犯罪が実現されるかもしれないことを認識していたはず。

弁護側の主張

- Coinhiveは単に計算を行うに過ぎない。
- 男性はCoinhiveをウイルスと認識して利用していたわけではない。

判決

第一審では、閲覧者の同意を得ていないため反意図性は認められるが、不正なプログラムに該当するかは疑問が残る、と判断し無罪判決。

しかし、検察側が控訴して行われた第二審では、裁判長はCoinhiveをウイルスにあたるものであると判断し、有罪判決。

考察

法律の規定が曖昧すぎると感じた。司法側の解釈次第で判断が変わる可能性さえある現状は、決して良くないものだろう。

今後もこのような事態が発生しかねないため、解釈に幅を持たせた法律を改正して、定義を厳格化していくべきである。

参考文献

<https://crypto-times.jp/whatiscoinhive/>
<https://doocts.com/3403>